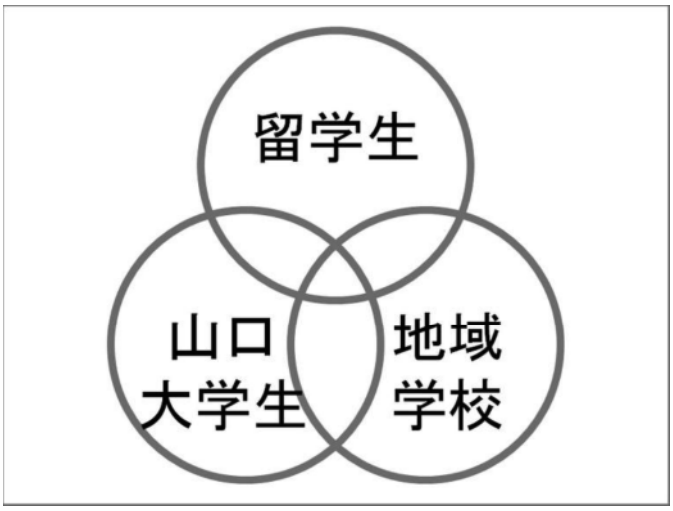
Let's connect with Japan!!

代表者　サポコタナビン（国総B2年）

構成員　壽惠村　夏未（人文B2年）　川端　蒼海（人文B2年）　豊田　昴志（国総B2年）
池田　萌（国総B2年）　板橋　奈津（国総B2年）

1.　「Let's connect with Japan!!」について

たくさんある留学先の中で山口大学を選んでくれた留学生の皆さんに日本独特，地域独自の文化活動を伝え，留学生同士や日本人との幅広い交友関係を築いてもらうことで大学生活をより充実したものにしてもらうことを目的としている。留学生を対象としたプロジェクトではあるが，山口大学生や地域を巻き込むことで，外国に旅することがなくとも，異文化理解，言語交換の重要性やおもしろさを感じられるものにした。昨年立ち上げられたサークル BREEZE による取り組みであり，「国際交流ひらかわ風の会」の学生部会としての活動も進めた。



プロジェクトイメージ

2.　2017 年度の主な活動内容

- サークルの立ち上げ
- アンケートの実施
- 山陽小野田市へのバスツアー
- 姫山祭への出店
- 中国大学生友好交流訪日団の受け入れ，歓迎イベントへの協力
- 年間通じた風の会のイベントへの参加
- 定期的な役員会の実施
- サークルメンバーでの食事会の実施

3.　活動報告

3.1　ヒアリング調査

風の会の活動参加時や，学内で出会う留学生に声をかけるなどしてアンケートを実施した。イベントを企画した場合参加したいかどうか，日本について今知っていること，体験したい日本文化を尋ねた。アンケートは紙媒体で実施した。37 人から回答を得ることができた。例えば体験したい日本文化として体験したいことに次のような意見がでていた。日本人のマナー，七夕・花火大会・お正月のような季節のイベント，浴衣・着物のような伝統的な衣服の試着，盆踊りのようなダンス，茶道，華道，書道，折り紙，日本語教室，温泉入浴。中でも浴衣・着物の試着や茶道は体験したいという意見が多かった。アンケートの意見を参考にして，活動がすこしでも留学生の希望に沿う形になるようメンバーで話し合った。

3.2　BREEZE 顔合わせ

10 月 4 日（水）に BREEZE で顔合わせを行った。顧問で経済学部名誉教授の富本先生と大岩先生にもご出席いただいた。この日まで風の会のボランティアに参加するなどして何度か活動はしていたものの，サークルのメンバーで集ったことがなかったので初めての顔合わせとなった。サークル立ち上げの際に中心的に事務仕事などを行った大学生が役員となり自己紹介の後，進行を務めた。

BREEZE 顔合わせ集合写真

3.3　山陽小野田市きららガラス未来館にてサンドブラスト体験

10 月 15 日（日）に山陽小野田市きららガラス未来館にてサンドブラスト体験を実施した。留学生 17 人，日本人 9 人の計 26 人の参加があった。山口大学からバスを借り上げてガラス館まで行き，19 人が体験した。作業は初心者でも簡単で，ガラスのコップやお皿に切り絵を貼り付け，専用の機械を使って特殊な砂を吹き付けて洗い落として完成させる。舞子や相撲といった日本ならではの切り絵や，クジャクのような複雑なものまで様々だったが，皆趣向を凝らしてオリジナリティーあふれる作品ができていた。

サンドブラスト用イラスト切り抜き作業

今回の活動における反省点は大きく 5 つある。まずはじめに，当日までの連絡についてである。そもそも留学生の参加を募る際，一部の日本人大学生の人脈を頼りすぎていたために，留学生からの質問が一部のメンバーに殺到したり，大学生間でうまく情報共有ができなかった。ラインを使用するにしても質問掲示板を作成して役員の誰でも回答ができ，参加者が閲覧できる仕組みをつくるべきだという案が出た。2 つめに，当日の予定表や体験先のパンフレットを配布するべきだった。思い出として形に残る上，一日の流れをみんなで共有できてより進行がスムーズになったはずだ。また当日の集合時間，場所，休憩の有無，準備物などの連絡がラインのグループ上で流されただけだったため，きちんと認識されていないように思われた。解決策として事前に参加のための契約書を作成し，当日のタイムスケジュールや持参物，写真使用の可否などのある種の契約作業を行うべきだという案がでた。3 つめに，英語でのコミュニケーションがうまく行かなかったために，移動や体験説明などでは留学生に不便をかけたように思う。ガラス未来館についての説明ももう少し詳しく行いたかったと思う。そして 4 つめは予定していた昼食場所が臨時休業していたことだ。昼食先に対して事前の確認を怠ったために 20 人以上の昼食の準備をどうしたものかと悩まされた。ガラス未来館のスタッフの方のご配慮により昼食メニューの事前予約と場所確保ができたが，このようにうまくいったのは運がよかったのに過ぎない。団体で動くということを念頭に置いて関わりのある施設，団体には確認をとらなければならないと学んだ。最後に今回の活動目的は留学生に日本文化を体験してもらうことと同時に，留学生間や日本人大学生との間の交流を図るものであった。しかしバス移動の際や昼食時，フリータイムにおいても決まったメンバー（主に同じ出身国）でかたまってしまい活発な交流をするに至らなかったのは残念である。ちょっとしたレクリエーション，自己紹介の時間などがあればよかったかなと思う。

よかった点として上がったのは次の 3 つである。1 つめは写真係を固定しなかったのでたくさんの写真が撮れたこと，2 つめはガラス体験が初めての留学生が多い中で，今回のサンドブラスト体験は難易度がちょうどよかったこと，そして 3 つめに時間に余裕をもたせていたことで出発の遅れや体験の追加，昼食場所の変更などがあったにも関わらず大きな失敗がなかったということだ。

なかなかにアクシデントの多い初のイベントだったが，体験先のスタッフの方のご配慮に救われて無事に活動ができた。留学生の楽しそうな顔を見て当日までの苦労が吹き飛んだ。

ここで今回の体験を終えた留学生からの感想を紹介する。「私達は山口県へ来てわずか一月目（ひとつきめ）にして新しい体験ができました。どのようにガラス作品ができるのかよく分かりました。これは私達が学ぶべき芸術であり，他の人の体験を尊重し，芸術がお金にかえられないものだと知りました。これは魅力的のもので，よくできていました。ありがとう。」「今回のイベントに誘ってくれてありがとう。この体験は私にとって初めてでとても楽しかった。次にまたイベントを企画するときは，ぜひまた誘ってください。」「このようなイベントに誘ってくれてありがとう。とてもよく考えられていて時間に正確でした。これからもこのような企画を続けてください。」との温かいお言葉をいただいた。

館内注意，初期説明

作品完成後集合写真

3.4　中国訪問団についての報告

平成 29 年 12 月 1 日に行われた日中植林･植樹国際連携事業の一環である中国大学生との友好交流会で BREEZE は国際企画課からの依頼を受けて山口大学の紹介および交流会の参加者募集，企画・進行を行った。10 月中旬に国際企画課から依頼を受け，その後 BREEZE に話を持ち帰り，大学紹介では特に留学面における山口大学の魅力

紹介をすること，交流会での催し物は「よさこいやっさん！」によるよさこいを披露すること，交流会での料理はリクエストできるということで中国大学生に楽しんでもらえるよう山口県や日本の料理を考えるということ，交流会の参加者はチラシや人脈を通じて募ることが決定した。そこで Google アンケートを使用して BREEZE のメンバーなどに山口大学の魅力と交流会で食べたい日本の食べ物を聞いた。回答として前者は「緑が豊か」，「歴史がある」など，後者は「ふぐの天ぷら」，「寿司」，「瓦そば」，「抹茶ケーキ」などが得られた。料理のリクエストは国際企画課を通して伝えてもらい，当日はほとんどリクエストに沿ったものを提供していただいた。

反省点は参加者募集の方法である。当初はチラシによる宣伝も考えていたが時間の都合でチラシが作成できず，結局 BREEZE メンバーの人脈のみで参加者を募ることになった。結果的に 17 名の山口大学生が参加してくれたが，せっかくの中国大学生と交流できるチャンスをもっと多くの人に伝えるべきだった。チラシの作成でなくとも BREEZE の公式 Twitter アカウントを作成し，そこでの宣伝もできたと思う。

よかった点は交流会当日の連携がスムーズにいったことである。当日は大学会館での歓迎行事の後，ボーノでの交流会であったため，双方の会場に BREEZE メンバーを配置し，状況を報告し合うことによって交流会が滞ることなく始められた。

交流会は食事をしながらお互いのことを話したり，AKB48 の「恋するフォーチュンクッキー」を一緒に踊ったりするなど日中の友好が感じられる非常に有意義な時間となり，参加者も満足しているようだった。

食事と交流を楽しむ日中の大学生

日中の大学生で一緒にダンス

4.　おわりに

大学に入学して間もなくわずか 3 人から始められた団体活動であったため，失敗してもしょうがない，4 年間通じて作り上げていこうとの考えで今日まで活動をしています。正直に言うと，この「山口大学おもしろプロジェクト」の活動が成功に終わったとは考えにくいところがあります。脆弱すぎる運営の体制や風の会の活動を軸にしすぎた部分が多く自主性に欠けていたこと，参加者の広がりが見られなかったことなど反省点は挙げればきりがありません。前例もなく，何もかもが手探り状態だったのでサークルとしての存在意義すら分からなくなりかけたこともありました。それでも，他のプロジェクトから刺激をもらったり，自主活動ルームの方々に何度もアドバイスをいただき背中を押していただいたおかげで今年もサークルとして気持ち新たに活動を始めていますし，協力してくれる仲間もたくさん増えました。「失敗してもいい」という「山口大学おもしろプロジェクト」のスタンスにすがりながら試行錯誤した 1 年がこれからの活動の糧になると確信しています。